

V250a TMT 計画 – 進捗報告

白田知史, 青木和光, 伊王野大介, 倉崎高明, 進藤美和, 嘉数悠子, 能丸淳一, 寺田宏, 杉本正宏, 鈴木竜二, 尾崎忍夫, 矢野達男, 土居守, 吉田道利, 常田佐久他 (NINS/国立天文台), H. Yang, D. Jergovic, L. Simard, A.N. Ramaprakash, T. Soifer, B. Kirshner, F. Liu 他 (TMT 国際天文台 (TIO))

TMT は日本が国際協力で実現を目指している次世代の超大型 30m 光学赤外線望遠鏡である。2019 年以後ハワイ現地工事を進められていないが、TMT に批判的だった地元関係者との直接対話を進めると共に、地元住民のニーズに沿った教育支援や職業訓練プログラム等の活動を進めてきた。更に、先住民を含むハワイ関係者からの助言およびハワイ州法第 255 号に沿って、TIO 評議員会は TMT の建設地を古い望遠鏡を撤去した開発済用地に変更するために必要なプロセスや手続き、スケジュールの調査をマウナケアの新管理組織 (MKSOA) およびハワイ大学に依頼した。10 月にはハワイ選出の連邦議員 4 名とグリーン知事から、MKSOA 及びハワイ大学と連携し、開発済用地での建設に関連する必要な許可取得のための明確かつ透明性のある手続きを速やかに確立するという返答を得た。このように、ハワイでの TMT 建設に向けた関係者との協力が進展している代替建設地ラパルマの検討については、7 月にスペイン科学・イノベーション・大学省の Morant 大臣から、ラパルマへの TMT 誘致に向けて建設資金の一部として最大 4 億ユーロを出資する提案があり、TIO 評議員会では提案内容について詳しい調査と議論を行なっている。米国では 5 月末に国立科学財団 (NSF) が 2026 年度予算要求書を連邦議会に提出し、その中で TMT は最終設計段階に進めないと発表した。これはまだ最終決定ではなく、予算は歳出権限を唯一持つ連邦議会が決定するため、連邦議会の動向が重要であり、国立天文台も文部科学省や外務省と協力して支持拡大等の対応を進めている。本講演では国内の開発状況等を含め TMT 計画の現状と展望を報告する。